

## 目次

第一章 序論	1
第一節 はじめに—「モンゴル・オルス」という視座	1
第二節 問題提起—「モンゴル・オルス」	6
2-1 「明代蒙古」という立場	6
2-2 「北元」という立場	9
2-3 「暗黒の時代」という立場	22
第三節 先行研究の概観	31
第四節 研究の仮説及び研究の方法	35
4-1 研究の仮説	35
4-2 研究の方法	36
4-2-1 「城郭国」—都市国家	36
4-2-2 「行国」—オルス（[Ulus]）	39
第二章 「黄金家族」の歴史としての編年史	59
第一節 四部の編年史	59
1-1 著者不明『蒙古黄金史』	61
1-2 サガン・セチェン『蒙古源流』	66
1-3 ロブサンダンジン『アルタン・トブチ』	72
1-4 著者不明『シャラ・トージ』	76
第二節 「黄金家族」と仏教	80
2-1 ブッダの「黄金家族」の後裔としてのチンギス・ハーンの一族	80
2-2 『章所知論』と転輪王チャクラヴァルティ・ハーン説の起源	87
2-3 歴史の刷新	89
第三節 語りかける編年史	95
3-1 遊牧民の「史学伝統」	96
3-2 編年史におけるチンギス・ハーンの死	100
3-3 語りかける編年史	104
第三章 「大モンゴル」の甦生と仏教の導入	112
第一節 大元オルスの記憶—二つの喪失	112
1-1 編年史における大元オルス	112
1-2 大元オルスの遺産	119
1-3 『ツァガン・テウケ』	123
第二節 モンゴルの起源に関する新たな神話の誕生	127
2-1 モンゴル・オルスの起源	127
2-2 六トゥメンの関係	130
第三節 神聖なる宗教とモンゴル民族の起源記憶	143
3-1 モンゴル仏教の起源について	143
3-2 仏教導入の政治性	147
3-3 仏教と「黄金家族」の合一	153
第四章 結論	171
モンゴル年表	176
チベット年表	179
参考文献	183